

第3章

小学校入門期における 指導の接続

就学前教育カリキュラム第3章には、「1 小学校入門期の各教科等における指導の接続」として、「国語科」「算数科」「生活科」「音楽科」「図画工作科」「体育科」「特別活動（学級活動）」を掲載しています（P.98～P.105）。

本ハンドブックにはその中から、「国語科」と「算数科」を掲載しています。



1 小学校入門期の各教科等における指導の接続

(1) 各教科等における指導の接続のポイント

子供の発達や学びの連続性を保障した教育活動を行っていくためには、就学前教育と小学校教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることが重要です。

本カリキュラムでは、子供に生きる力を育成するために、その基礎となる資質・能力を「確かな学力につながる〔学びの芽生え〕」「豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕」「健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕」と捉えました。そして、この3つの資質・能力について、0歳児から5歳児、そして小学校の入門期にかけて、子供に確実に経験させたい内容を明らかにしました。

特に、小学校入門期には、生きる力の基礎となる三つの資質・能力を培うために、子供に確実に経験させたい内容の視点（思考、言葉、創造、協同、信頼、規範、基本的な生活習慣、運動）に基づいて、教師は次のことに留意して指導を行い、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図りながら、各教科等の目標の実現に努めていく必要があります。

- 就学前教育で子供が経験してきた内容のうち、小学校入門期における各教科等の学習において生かせることを明らかにして指導に当たる。
- 就学前教育で子供が経験してきた内容を踏まえて、小学校入門期における各教科等の目標や内容に基づいて子供に指導する事項を明らかにして指導に当たる。

次の頁の(2)では、就学前教育との接続を考慮した小学校入門期の各教科等の指導例を掲載しました。

<小学校入門期の各教科等の指導例>

算数科 単元名「10までの数」	
<p><小学校入門期における指導の在り方> 就学前に、児童は、ものを数えたり数字を読んだり、順番を意識することなどを、日常生活の中で経験してきた。 算数科の入門期の教材は、絵や写真を中心にして構成されており、数についてのイメージを膨らませるようにしている。就学前教育での経験に基づき、絵や写真とおなじきなどの具体物と1対1に正しく対応させ、個数や順番を数えたり個数を比べたりして、数に対する概念を構築することをねらいとしている。 この学習では、具体物を用い、ものの個数を数えたり比べたりする活動を通して、数の意味について理解できるようにする。</p>	
<p>ねらい：絵とおなじきを1対1対応させ、ものの個数を比べる。</p>	
<p>児童の活動</p> <p>動物の数を比べよう。</p> <p>① 問題の場面を確認する。 ・学校に行きところだね。 ・たくさん動物がいるよ。 ・種類もいっぱいだね。</p> <p>② 教科書の絵（いろいろな動物）を見て、気付いたことを発表する。 ・パンダやカバがいる。 ・一番多いのは、コアラかな。 ・イヌも多いよ。 ・どの動物が一番多いのかな。</p> <p>③ それぞれの動物の上におなじきを置き、個数を数える。 ・パンダ 3 ・カバ 4 ・コアラ 7 ・イヌ 5 ・サル 4 ・キツネ 3</p> <p>④ どの動物が多いのか、おなじき同士を1対1対応させ、比べる。 ・パンダとカバを比べると、カバの方が1多い。 ・カバとサルは同じ数だね。 ・コアラが一番多かったよ。</p> <p>⑤ 学習を振り返る。 ・おなじきを置くと、数えやすかったな。 ・もっと、たくさん動物を調べてみたい。</p>	<p>○算数科の指導事項 ● 就学前教育で経験してきたこと ■ 接続を考慮した指導のポイント</p> <p>○問題場面を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考)</p> <p>○問題場面の構成要素（何が、いくつ）を正しく理解できるようにする。 ・どのような場面か、何がいるか、いくつあるかなどと問いかけ、児童の発言を取り上げながら、学習への興味・関心や意欲を高めるようにする。</p> <p>○気付いたことを発表し、課題を確認する。 絵を見て気付いたことをみんなの前で話す。(言葉)</p> <p>○安心して発表できるように雰囲気大切にしながら、徐々に動物の種類と数について着目させることで、課題を明らかにしていく。 ・きちんと手を挙げて、指名されてから発言する姿勢を修養する。 ・同じ考えの児童がいるかを毎回確認し、認めていくようにする。 ・疑いの疑問を、全体の課題へと共有化していく。</p> <p>○動物の絵とおなじきを対応させ、数を数える。 ○おなじき同士を1対1対応させ、数を比べる。 数に興味をもち、必要感をもって扱う。(思考)</p> <p>○調べる活動を十分に確保し、数を比べるには、それぞれの数をおなじきを1対1対応すればよいことに気付くようにする。 ・席が近づく友達に、調べ方や結果を紹介する。 ・机の上の操作を黒板で再現し、どのように比べたのかを説明できるようにする。</p> <p>○数に関心をもち、ゲームや遊びの中で数える。(思考)</p> <p>○学習の中で、便利だった方法、これからも使える方法などに着目できるようにする。 ・児童の言葉で価値付けしていく。 ・次の学習への興味・関心をもてるようにする。</p>

小学校入門期の単元等を示しています。

就学前教育との接続を考慮した、小学校入門期における単元等の指導の在り方を示しています。

就学前教育で経験してきた内容のうち、小学校入門期における各教科等の学習において生かせることを明らかにしています。

就学前教育で子供が経験してきた内容を踏まえ、小学校入門期における各教科等の目標や内容に基づいて子供に指導する事項を明らかにしています。

就学前教育との接続を考慮した指導のポイントを示しています。

小学校入門期における指導の接続

(2) 小学校入門期の各教科等の指導例(抜粋)

国語科

単元名「絵を見てお話をつくろう」

<小学校入門期における指導の在り方>

就学前に、児童は、絵本や物語などに親しむ活動を通して想像する楽しさを味わったり、自ら表現することで言葉の面白さや美しさを味わったりすることを経験してきている。

国語科の入門期の教材は、文字がほとんどなく、絵を中心に構成したものを扱う。就学前教育での経験を基に、絵から見付けたことや想像したことについて、話し言葉を用いて表現することをねらいとしている。

この学習では、イメージしたことをみんなの前で話したり、友達が話すことに興味をもって聞いたりすることを大切に、「読むこと」の学習の基本となる力を育てていく。

ねらい：絵を見て想像したことを言葉で伝える。

児童の活動	○ 国語科の指導事項 □ 就学前教育で経験してきたこと ▭ 接続を考慮した指導のポイント
<p data-bbox="153 672 573 705">教科書の絵を見て、お話をしよう。</p> <p data-bbox="128 720 595 846"> 1 学習のめあてを確認する。 ・絵を見ながら説明すればいいんだね。 ・お話をすることを見付けたよ。 </p> <p data-bbox="128 933 595 1174"> 2 教科書の絵（登校している様子）を見て、見付けたものを発表する。 ・1年生がたくさんいます。 ・黄色い帽子をかぶっているのが1年生です。 ・桜の花が咲いています。 ・やさしいお姉さんが手をつないでくれています。 </p> <p data-bbox="128 1207 595 1477"> 3 黒板に書かれた「見付けたもの」の言葉を声に出して読む。 ・いちねんせい ・きいろい ぼうし ・さくら ・おとこのこ ・おんなのこ ・がっこう ・せんせい </p> <p data-bbox="128 1510 595 1690"> 4 絵に出ている人が話していることを想像する。 ・「おはようございます。」 ・「きょう、いっしょに あそぼうね。」 ・「はやく、きょうしつに いこう。」 </p> <p data-bbox="128 1723 595 1812"> 5 学習を振り返る。 ・いろいろなお話ができた。 ・次の絵は、教室の絵にしよう。 </p>	<p data-bbox="618 662 1081 691">○ 学習内容を理解して見通しをもつ。</p> <p data-bbox="618 691 1229 749">目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考)</p> <p data-bbox="618 765 1229 880"> □ 絵を見ながら言葉で説明していくという学習の見通しをもてるようにする。 ・児童の発言を取り上げ、学習への興味・関心を高めるようにする。 </p> <p data-bbox="618 913 1199 942">○ 場面の様子をつかみ、見付けたことを発表する。</p> <p data-bbox="618 942 1204 971">絵を見て見付けたことをみんなの前で話す。(言葉)</p> <p data-bbox="618 991 1229 1136"> □ 安心して発表できるような雰囲気を大切にしながら、徐々に「発表の仕方」が身に付くようにする。 ・自分から発言できたことを称賛する。 ・指名されたら返事をするように声を掛ける。 ・敬体で話すことを意識するように声を掛ける。 </p> <p data-bbox="618 1178 1146 1207">○ 文字で書かれている言葉を声に出して読む。</p> <p data-bbox="618 1207 889 1236">○ 音節を意識して読む。</p> <p data-bbox="618 1246 1153 1275">文字に興味をもち、使うことを楽しむ。(思考)</p> <p data-bbox="618 1294 1229 1439"> □ 文字に対する興味・関心を高めながら、音声言語と文字言語を結び付けて、読むことができるようにする。 ・発表した言葉(単語)を黒板に書く。 ・手拍子をしながら読む。「さくら」なら「さ・く・ら」と3回、手をたたく。 </p> <p data-bbox="618 1477 1044 1506">○ 絵を見て想像したことを発表する。</p> <p data-bbox="618 1516 1229 1574">様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。(言葉)</p> <p data-bbox="618 1593 1229 1796"> □ 友達の発表に対して、互いのよさを認め合いながら、興味をもって聞くことができるようにする。 ・友達の発表に付け足しながら、発表するように声を掛ける。 ・話している友達を見ながら聞いている児童を称賛する。 ・発表したことを基に劇などにして表現する。 </p>

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、ものを数えたり数字を読んだり、順番を意識することなどを、日常生活の中で経験してきている。

算数科の入門期の教材は、絵や写真を中心にして構成されており、数についてのイメージを膨らませるようにしている。就学前教育での経験を基に、絵や写真とおはじきなどの具体物とを1対1に正しく対応させ、個数や順番を数えたり個数を比べたりして、数に対する概念を構築することをねらいとしている。

この学習では、具体物を用い、ものの個数を数えたり比べたりする活動を通して、数の意味について理解できるようにする。

ねらい：絵とおはじきを1対1対応させ、ものの個数を比べる。

児童の活動	○ 算数科の指導事項 □ 就学前教育で経験してきたこと ■ 接続を考慮した指導のポイント
<p style="text-align: center;">動物の数を比べよう。</p> <p>1 問題の場面を確認する。 ・学校に行くところだね。 ・たくさんの動物がいるよ。 ・種類もいっぱいだね。</p> <p>2 教科書の絵（いろいろな動物）を見て、気付いたことを発表する。 ・パンダやカバがいる。 ・一番多いのは、コアラかな。 ・イヌも多いよ。 ・どの動物が一番多いのかな。</p> <p>3 それぞれの動物の上におはじきを置き、個数を数える。 ・パンダ 3 ・カバ 4 ・コアラ 7 ・イヌ 5 ・サル 4 ・キツネ 3</p> <p>4 どの動物が多いのか、おはじき同士を1対1対応させ、比べる。 ・パンダとカバを比べると、カバの方が1多い。 ・カバとサルは同じ数だね。 ・コアラが一番多かったよ。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・おはじきを置くと、数えやすかったな。 ・もっと、たくさんの動物を調べてみたいな。</p>	<p>○問題場面を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考)</p> <p>問題場面の構成要素(何が、いくつ)を正しく理解できるようにする。 ・どのような場面か、何があるか、いくつあるかなどと問いかけ、児童の発言を取り上げながら、学習への興味・関心や意欲を高めるようにする。</p> <p>○気付いたことを発表し、課題を確認する。 絵を見て見付けたことをみんなの前で話す。(言葉)</p> <p>安心して発表できるような雰囲気を大切にしながら、徐々に動物の種類と数について着目させることで、課題を明らかにしていく。 ・きちんと手を挙げて、指名されてから発言する姿勢を称賛する。 ・同じ考えの児童がいるかを毎回確認し、認めていくようにする。 ・個の疑問を、全体の課題へと共有化していく。</p> <p>○動物の絵とおはじきを対応させ、数を数える。 ○おはじき同士を1対1対応させ、数を比べる。 数に興味をもち、必要感をもって使う。(思考)</p> <p>調べる活動を十分に確保し、数を比べるには、それぞれのおはじきを1対1対応すればよいことに気付くようにする。 ・席が近くの友達に、調べ方や結果を紹介する。 ・机上の操作を黒板で再現し、どのように比べたのかを説明できるようにする。</p> <p>数に関心をもち、ゲームや遊びの中で数える。(思考)</p> <p>学習の中で、便利だった方法、これからも使える方法などに着目できるようにする。 ・児童の言葉で価値付けていく。 ・次時の学習への興味・関心をもてるようにする。</p>


小学校での新しい生活の中で、児童が見通しをもち自分ですすんで活動できるように、保育所や幼稚園等での子供たちの経験を生かして指導することが大切です。

例えば、次のような子供の経験を生かしていくことが考えられます。

＜就学前教育での経験＞

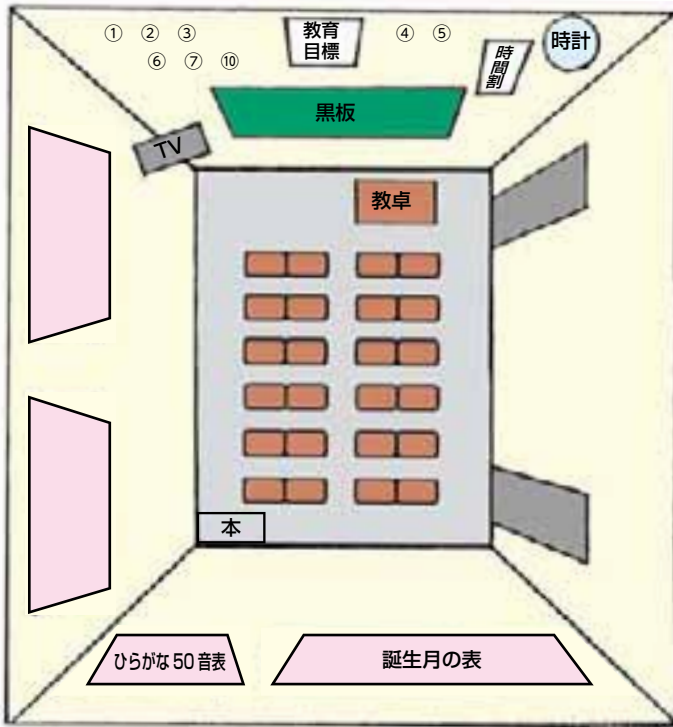
- 表示を手掛かりにしながら、見通しをもって活動する。
- 保育者の指示を受け止めて、友達と一緒に行動する。
- 行事等の意味が分かり、すすんで参加する。 など

◆入学当初の過ごし方

入学式後	具体的な指導例	担任の役割	担任を補助する教員等の役割
1日目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導 ①あいさつ、返事の仕方 ②姿勢、話の聞き方 ③ロッカー、トイレ、水飲み場の使い方 ④帰りの支度、下校の仕方 ⑤靴、傘のしまい方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任は、絵や写真などを使いながら、楽しく、分かりやすく必要事項を伝える。 ○何日かかけて身に付けさせるつもりで進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任の指示を理解していない児童や、やり方が分からず困っている児童に個別にかかわる。
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導 ①前日の指導の振り返り ②学習の準備、後片付け（含：体育着の着脱） ③授業中の約束ごと ④名前順の並び方 ⑤廊下の歩き方 ⑥チャームでの生活の区切り ⑦保健室への行き方 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任は、前日の指導を児童に振り返らせたり、やり方を教師自身が動きで伝えたりしながら、知らせていく。 ○児童には、話を聞くだけでなく、実際にやってみる機会を設けることで、やり方が身に付くようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少し時間のかかる児童を支援したり、廊下を歩く際に児童の後ろに付いて指示を出したりする。
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ○行事のはじまり ①身体測定 ②1年生を迎える会の歌の練習 ③避難訓練 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所や幼稚園等での経験を児童から聞いたり、行事の意図や小学校でのやり方を、絵や写真などを使って分かりやすく伝えたりしながら、児童が理解し見通しをもって動けるようにする。 ○担任を補助する教員等と綿密な打合わせをし、どこで、どのような補助をしてほしいかを明確に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行事の意図ややり方が分からないために不安に感じたり、トイレに行きたくなったり、具合が悪くなったりする児童に個別に対応する。 ○担任の意図を把握して適宜児童の支援をする。

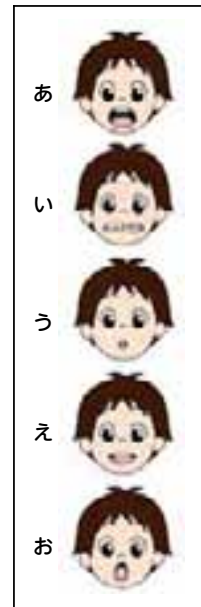
◆教室環境

児童が楽しく、安心して小学校生活へ移行できるように教室環境を工夫することが大切です。ここでは、児童が学習規律を身に付けることをねらいとした教室環境について例示します。必要以上に情報が入って児童の集中力を妨げるものがないように、見やすくすっきりとした掲示を心がけることも必要です。



<発表時の約束①～⑤>

①あいうえおの口の図



はっきりと話すように、口の開き方を絵で示します。

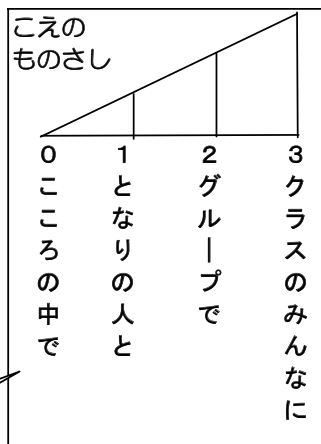
②発表の仕方の約束

「はっぴょうのやくそく
「はい。～です。」
「はい。～です。」
「わけは、～だからです。」

文として話すことができますようにします。

声の大きさを使い分けて、話せるように図で表します。

③声のものさし



保育所や幼稚園等の年長児でも使えます。

④話し方名人の表

はなしかためいじん

あ いてをみて
い っしょうけんめい
う んと口をあけて
え がおで
お わりまではなす

⑤聞き方名人の表

ききかためいじん

あ いてをみて
い っしょうけんめい
う なずきながら
え がおで
お わりまできく

<学習時の姿勢・鉛筆の持ち方⑥⑦>

⑥正しい姿勢の図

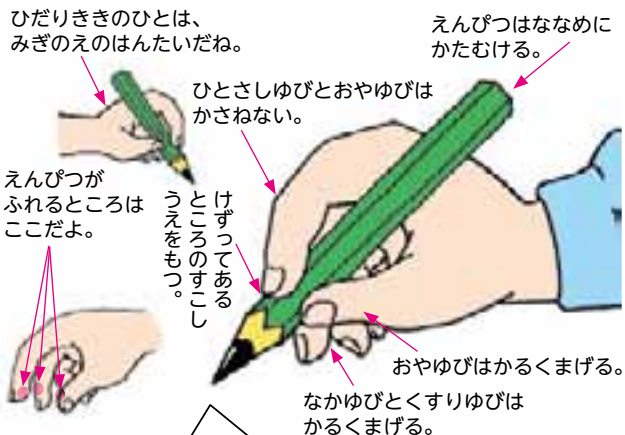
ただしいしせい

1. いすにきちんとすわる。
2. りょうあしをそろえて ゆかにつける。
3. みぎてとひだりてのいちをたしかめる。



書くときの正しい姿勢が、
分かりやすいように図で表します。

⑦鉛筆の正しい持ち方の図



よく見えるように教室の前に掲示します。

<整理・整頓⑧～⑩>

⑧体育着袋・靴袋掛け



自分の場所がはっきりと分かるように名前が書いてあるシールを貼る。
きちんと掛けることにも気付けさせるようにします。

靴をそろえて入れることに気付かせるように、靴箱の上に掲示しておきます。

⑨靴の入れ方

くつのはいれかた

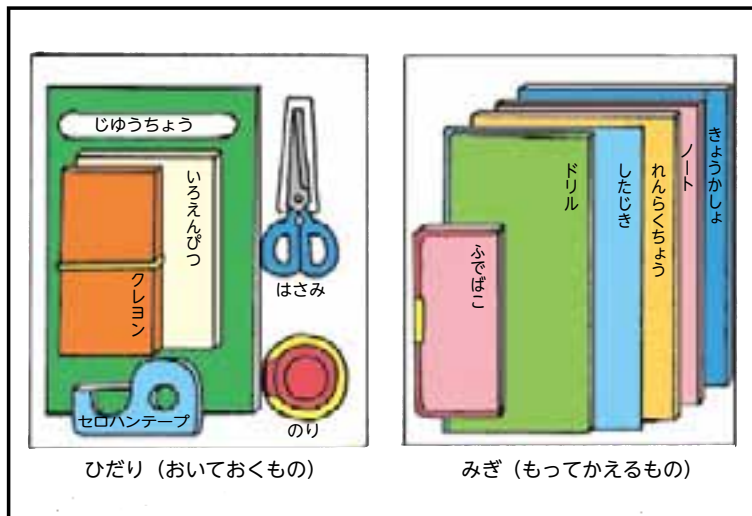


⑩引き出しの中に入れる物の図



持って帰る物、置いておく物が分かりやすいように具体的に絵や写真で表して掲示します。

また、きれいにそろえて入れると、使いやすいことにも気付かせるようにします。




小学校入門期に
おける指導の接続

◆学習規律

児童が新しい環境の中で、安心して学習に取り組めるようにするためには、一人一人が確実に、学習に臨む態度やきまり（学習規律）を身に付けていくことが大切です。

保育所や幼稚園等から継続して指導するものに加えて、小学校で新たに指導が必要なものもあります。教室での学習規律について以下に示しました。



保育所や幼稚園等から継続して指導する事項

- ・話の聞き方や話し方
- ・返事や挨拶の仕方
- ・椅子の座り方 等


継続 →

小学校で指導する学習規律

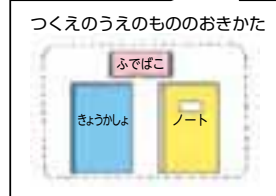
- ・教科書やノートなど文具類の使い方
- ・机の使い方（道具箱の整理等）
- ・決められた時間内での学習 等

児童に学習規律を身に付けさせるために、活動内容の具体的な流れを絵や図などで掲示したり、学習時計で時刻を示したりするなど、児童が見通しをもち、すすんで学習に取り組めるように工夫します。


学習時計



つくえのうえのもののおきかた



次に、体育科の授業など、教室外での学習規律について以下に示しました。



保育所や幼稚園等から継続して指導する事項

- ・整列の仕方
- ・教師の指示や合図を聞くこと
- ・着替え 等

継続 →


小学校で指導する学習規律

- ・校庭の遊具や体育館の使い方
- ・決まった時間内での学習 等

児童が自分からすすんで活動するために、学習規律を具体的に分かりやすく伝えることが大切です。また、友達同士の間人関係をつくる活動や声掛けを意識的に取り入れましょう。教師の肯定的な声掛けで、児童は自信をもって活動できるようになります。



脱いだ物をきちんとたたんでおくと、気持ちがいいですね。



体育の着替えのときは、ただ児童から、教室の前（または後ろ）に並び、「みんなで素早く着替えて並ぶ」という意識をもたせましょう。

また、着替えが終わった教室を全員で見回して、衣類がきちんとたたまれていて、教室全体が整理整頓されていると美しいことを確認するようにします。



小学校入門期における指導の接続

◆お弁当から給食へ

保育所から就学した児童は、比較的給食に慣れていますが、しかし、幼稚園から就学した児童は、就学前はお弁当を食べることが多く、給食になると配膳の仕方が違ったり、食べ慣れないものがあったりするなどして、戸惑うこともあります。

また、昼食時間については、保育所や幼稚園等は小学校に比べて、ゆったりと設定しています。これらの違いを互いに理解し、指導の仕方を工夫し合うことで、児童は楽しく給食を食べることができるようになります。

お弁当



給食



ポイント



ポイント



保育所や幼稚園等でも、食事の準備を幼児が行います。テーブルを拭く、お茶を配る、「いただきます」の挨拶をするなど様々です。

○テーブルを拭くだけでなく、布巾を洗う、絞るといったことも行うようにします。給食の準備だけでなく、掃除のときにも活用できます。

○幼稚園等でお茶を注ぐなどの当番活動がある場合は、少しやり方を変えるとよいです。例えば、お盆にグループの友達のコップを集め、お茶を注ぎ、そのお茶をテーブルまで運び配るなど、配膳の体験をさせます。

○お弁当の準備や食べ終わった後の時間は、同じグループの友達と「しりとり」や「なぞなぞ」をするなど、みんなで「いただきます」「ごちそうさま」をする習慣、待つ習慣が身に付くように指導します。

小学校での配膳の仕方が分かるように、紙芝居やパネルシアター等を使って、仕事の手順を丁寧に教えたり、給食当番を一週間で交代したりして、仕事を順番に覚えられるようにします。

○小学校では、白衣に着替えます。絵などで示して、着方が分かるようにします。

- ・白衣のボタンをきちんと掛けます。
- ・白衣の袋はなくならないようにポケットに入れます。
- ・白衣を着る前に、石けんでつめや手首まで丁寧に洗います。など



○配膳は、危険のないように、おしゃべりをしないで、落ち着いてできるよう指導します。お盆が重くなるので、牛乳は机に配るなど工夫します。

○当番以外の人はトイレと手洗いうがいなどを済ませたら、静かに座って待つなど、食事のきまりについて理解させ、守るよう指導します。



◆清掃

小学校では、毎日清掃の時間が決まっています。自分の教室や廊下を、当番が週ごとに交代で清掃をします。清掃用具の基本的な使い方（ほうき、ちりどりの扱い方や雑巾の絞り方等）をまずはしっかりと身に付けさせることが大切です。

4月当初、6年生が1年生の教室や廊下の清掃を担当する小学校もありますが、ただ、清掃をしてもらうだけではなく、6年生から清掃用具の基本的な使い方や清掃の仕方などを教えてもらうなど、1年生の児童が、1日も早く自分たちで清掃できるように工夫することが大切です。

よく使う用具は、子供に見えるような片付け方を工夫します。そして、子供にも簡単に整理できるようにします。そして、いつでも整理整頓されている保育室の環境を心掛けましょう。

保育所や幼稚園等では…



保育室の床に、ビニールテープで印を付けて、ほうきでゴミを集める場所を示したり、雑巾の絞り方を提示したりして、子供が清掃をしやすいように工夫しましょう。

<雑巾の絞り方の写真>



①ひだりてをうえ、みぎてをしたにして、そうきんをかるくにぎります。



②りょうほうのてくびを、おやゆびのほうにうごかして、そうきんをしぼります。



③さいごにもういちど、ぎゅっとしぼります。



小学校でも、保育所や幼稚園等の取組の工夫を取り入れて、継続的に清掃指導をすることが大切です。

小学校では…

小学校の教室は、保育所や幼稚園等の保育室より広く、机や椅子など、清掃をするために動かさなければならぬものも多くあります。いくつかのルールを決めて、児童が清掃の仕方を円滑に身に付けることができるようにすることが大切です。

<清掃のきまり（例）>

- ・児童机は、二人一組で運びます。
- ・列ごとに運ぶペアを決めます。
- ・ほうきで掃く児童、雑巾で拭く児童と役割分担を明確にします。
- ・ほうきで掃く時間、雑巾で拭く時間を決めて、児童に見通しをもたせます。



◆登降園から登下校へ

保育所や幼稚園等では、保護者が送り迎えをします。しかし、小学校では自分一人で登下校します。学校への道順や学校からの帰り道が分からなくならないように、保護者に協力してもらい、入学前に学校の行き帰りの道順を確認してもらいましょう。



「学校へ行こう！」

(目的) 冬休みの間に、保護者と一緒に小学校まで歩いて行くきっかけづくりをする。
(内容) 冬休み前の保護者会などで、就学に向けての話の中で、以下のような地図とカードを配布し、親子でチャレンジしてもらおう。

〇〇しょうがっこうまでのちず

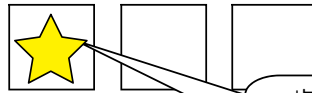


- ① いえのひとといっしょに、しょうがっこうまでのちずをかいてみましょう。
- ② めじるしには、ほしのシールをはりましょう。
- ③ ちゅういしてとおったほうがいいみちは、きいろでぬりましょう。

※ このような活動は、小学校の生活科の学習にもつながります。

がっこうへいこう！！

ふゆやすみにおやこであるいてみましょう。



<かんそう>

歩いたら、□にシールを貼ります。

がっこうへいこう！！

もうすぐ1ねんせい！がっこうまであるいてみましょう。(はるやすみよう)



<かんそう>

下校については、児童が慣れるまで（児童の実態を踏まえて）、児童の帰る方向別に班をつくり、担任教諭や専科教諭、主事等の教職員が協力して児童を引率し、通学路の危険箇所や交通ルールを守った道路の歩き方などを指導することが大切です。

ここは、車がよく通る交差点だから、気を付けて渡って帰ってほしいね。



はい。先生、分かりました。さようなら。

このようなことの積み重ねで、安全に登下校できるようになります。

